

# 花と木の実践養成教室

花づくりの基礎《肥料と病害虫防除》 令和5年4月25日 (火)

多肉植物について《殖やし方》



## 《肥料》

### 1) 三要素

#### ○チッソ(N)「葉肥」

茎や葉などの生育を促進し葉の色を濃くします。

チッソは、あらゆる植物の成長に必要な成分で、葉を茂らせ、茎を太く丈夫にする役割があります。

#### ○リン酸(P)「花肥・実肥」

開花や結実を促進し根を伸長させます。

リン酸はとくに花や実を大きく育てるのに必要な成分です。不足すると花付や実ないが悪くなります。

#### ○カリウム(K)「根肥」

根や茎葉を丈夫にし、暑さ寒さなどの悪環境に対する抵抗性や病害虫に対する抵抗性を強めます。

### 2) 中量要素

○カルシウム(Ca) 植物体を丈夫にし、根の生育を促進します。

○マグネシウム(Mg) リン酸の吸収や植物体内の移動を助けます。

○硫黄(S) 根の発達や植物体内の色々な作用を助けます。

### 3) 微量元素

- 鉄(Fe)光合成に必要・光との関係が深く不足すると生育が阻害される。
- マンガン(Mn)光合成に必要・二酸化炭素と関係が深いです。
- ホウ素(B)根の成長と花つきに関係します。
- 塩素(Cl)光合成の際に酸素を出すのに深くかかわっている。
- 亜鉛(Zn)植物の成長する速さと深い関係があります。
- 銅(Cu)新芽などが花やみの付く成熟した株になるために必要です。
- モリブデン(Mo)硝酸還元を植物内で行う酵素です。

## 肥料の効き方

①速効性肥料「化成肥料や液体肥料」  
すぐに効きますが持続効果が短い。  
追肥として定期的に施します。

②緩効性肥料  
施した時から効き始め、ゆっくりと長く効果が持続する。  
錠剤や粒剤のように固形化するなど徐々に溶け出す工夫  
をしています。

③遅効性肥料「固形肥料」  
主に有機質をベースにしているため、効き方は遅いので  
すが、長く効きます。  
元肥として使用します。

## 肥料の施し方

### ①元肥

- ・植え付けたい、植え替えるとき、前もって土に混ぜたい、埋めたいする肥料
- ・緩効性や遅効性の肥料を使用。

### ②追肥

生育期間の長い植物や生育旺盛な植物は元肥だけでは肥料が不足します。生育に応じて追加して施す肥料。

### ③芽だし肥とお礼肥

- ・丈夫な芽が出るようにと、新芽の時期に施す肥料を芽だし肥。
- ・花が終わった後や果実を収穫した後に、お礼と言うことで施す肥料をお礼肥。

### ④寒肥

- ・庭木、花木、果樹などが休眠している冬季に施す肥料。
- ・樹木の周りに穴や溝を掘って、遅効性の有機質肥料等を施す。

### ⑤置き肥

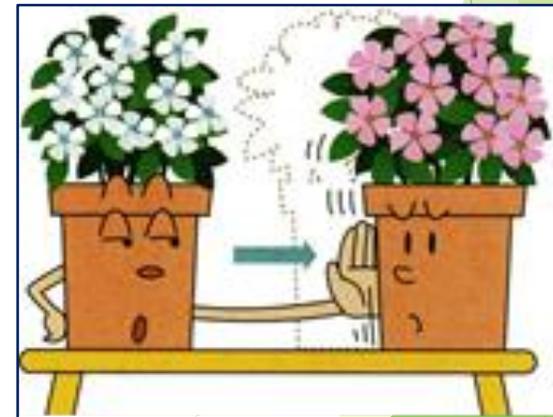
- ・鉢土の表面に置く緩効性肥料。

# 病害虫対策

## 病害虫の発生に対する環境整備

植物が生育するための条件として、日照・肥料・水やり・通風・温度・土壌などを適切に管理し、連作を避けて健康に育てることが、病害虫に対する予防法です。

- ◇日当たりの良い場所で管理していますか！
- ◇鉢と鉢との間隔をあけて、風通し良くしていますか！
- ◇鉢は栽培棚などの上に置いて管理していますか！
- ◇肥料は適量に与えていますか！
- ◇水を与えすぎてはいませんか！



# 主な害虫

## ① アブラムシ

- ・あらゆる植物に寄生、繁殖力旺盛、汁を吸って害を与えます。
- ・ウイルス病の媒介の原因になります。

## ② カイガラムシ

- ・庭木や果樹に寄生、成虫は防除が難しい、幼虫期(5月~7月)に薬剤散布が効果的です。

## ③ コナジラミ

- ・草花、野菜に寄生、白い小さな虫です。

## ④ ケムシ類

- ・蝶や蛾の幼虫、年数回発生します。

## ⑤ ヨトウムシ

- ・昼間は株元に潜み夜間に葉を食害します。

## ⑥ エカキムシ

- ・葉の中にもぐり食害しながら移動、絵を描いたような跡が残ります。

## ⑦ ハダニ

- ・葉裏に寄生して、汁を吸います。

# 主な病気

## ①うどんこ病

・うどん粉をまぶしたように、白いカビが一面に生えます。

## ②さび病

・葉に小さいいぼ状の病斑ができ、やがて薄皮が破れ中からさびに似た粉(胞子)が飛びます。

## ③黒星病

・葉に黒いしみ状の斑点ができ病斑のまわりが黄色くない落葉し株の勢いが著しく衰えます。

## ④褐斑病

・葉に小さな淡褐色の斑点があらわれ短期間に広がり、病斑上に黒い斑点が現れ、下葉から枯れ上がります。

## ⑤炭そ病

・葉、茎、花、果実と発生する箇所はさまざまで、円形の病斑ができ、葉は古くなると穴があきます。

## ⑥べと病

・葉の表面の葉脈に区切られた病斑が生じ、次第に大きくなる。湿度の高い時期に多く発生します。

多肉植物の殖やし方には、「葉まき」「挿し芽」「株分け」があり、時期は春か秋です。今回は、1枚の葉から根と芽を出させて一つの株に成長させる「葉まき」を行います。

虹の玉です！



赤玉土(小粒)4:バーミキュライト4:堆肥1:クンタン1の比率で配合しました。



元気なぷくらした葉を根元から取り、  
乾いた用土の上に並べて置いていきます。



「葉まき」の完成です。  
水遣いは、発根して  
から与えます。



成長が  
楽しみです！